

ENVIRONMENTAL ACTIVITY REPORT

環境活動レポート

2012.4



2013.3
(4版)



沖縄国際大学

Okinawa International University

エコアクション21について

○「エコアクション21」とは

「エコアクション21」とは、平成8年に環境省（旧環境庁）が策定した中小企業、学校、公共機関向けの環境経営システム（環境マネジメントシステム）であり、環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築するとともに、環境への取組に関する目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告するための手法です。

「エコアクション21」は、国際規格の「ISO14001」をベースに環境省が策定した「エコアクション21ガイドライン」に基づく事業者のための認証登録制度で、環境省の外郭団体である（財）地球環境戦略研究機関が認証する環境経営システムの国内規格です。

※事業者が自主的に環境保全に関する取組を進めるに当たり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境管理」又は「環境マネジメント」といい、このための事業所内の体制・手続き等を「環境マネジメントシステム」といいます。

○目的と期待される成果

現在の大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムは、人類に便利で快適な暮らしをもたらしたが、その一方で、自然環境に多大な負荷を与えた結果、社会経済システムと自然環境のバランスが崩れ、地球の温暖化や資源の枯渇等が生じ、このままでは人類の生存そのものが脅かされる可能性があるといわれています。

そのため、このような大量生産、大量消費、大量廃棄の20世紀型の社会経済システムを、「最適生産・最適消費・最小廃棄」の社会である持続可能な循環型社会へと作り替えていく必要が生じてきます。

このような持続可能な循環型社会の構築に向けては、事業者、消費者、行政等、すべての主体が自主的、積極的な環境への取組を行っていかなくてはなりません。特に大学は、社会が対面する環境関連の諸問題の解決のため、環境意識の高い学生の育成・輩出、環境に関する研究の実施及びその成果の公表と社会への還元、学内外活動を通じた環境意識の高揚の場等として、より積極的な取組が求められています。

エコアクション21において作成・公表を必須としている環境活動レポートでは、環境方針、環境目標とその実績、主要な環境活動計画の内容、環境活動の取組結果の評価等、環境経営システムに関連する事項について取りまとめるため、その作成・公表により環境経営システムをより適切に運用することはもちろん、一事業者として社会に対して責任を果たすこと、さらには自らを対外的にアピールすることができるツールとしても有効であると考えられます。

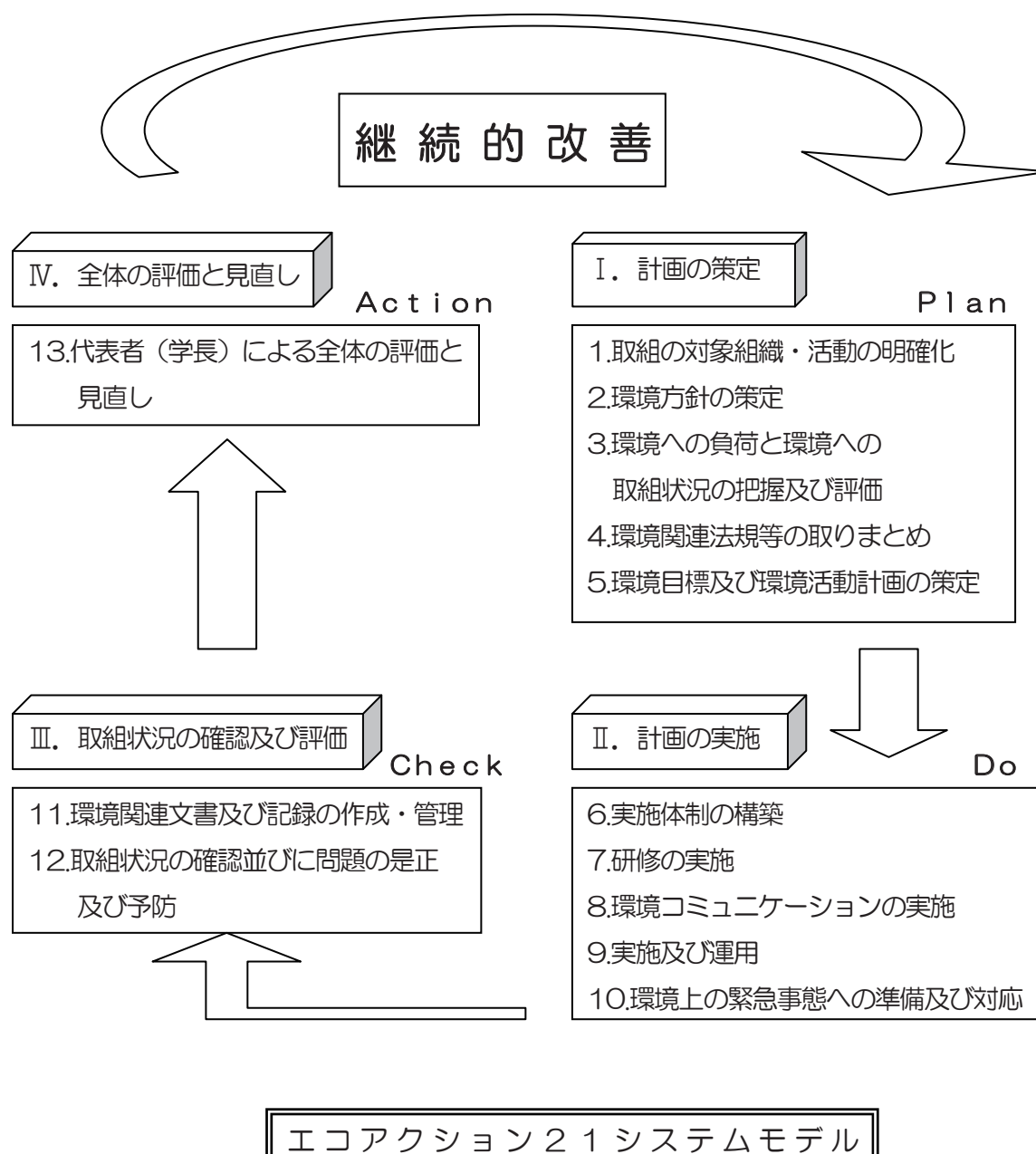
○認証・登録の意義（メリット）

定期的な外部審査を受けることにより、事務事業の適正評価や改善するための進行管理の徹底を図ることができ、目的管理が定着します。また、認証・登録を更新するという目的に向かって行動することが、結果的に省エネ、廃棄物処理費の削減につながるとともに、本学が、環境に配慮した経営を行っている事業としての一つの証となります。

環境経営システムの構築及び運用

沖縄国際大学（以下、本学という）は、エコアクション21（以下EA21という）ガイドラインの「要求事項（13項目）」に従って、本学の環境経営システムを構築・運用するために「環境経営マニュアル」を作成します。そのシステムは、「計画の策定：Plan」「計画の実施：Do」「取組状況の確認・評価：Check」「全体の評価と見直し：Action」のPDCAサイクル活動を行い、「継続的な改善」を図ることにより、システムの有効性の向上を目指します。また「環境経営マニュアル」は、定期的に見直すものとします。

その「環境経営システム」のモデルは、下記の「システムモデル図」によります。





エコアクション21
認証・登録番号 0006450

E A 2 1	2012	第4版
2013年	11月	20日作成
2014年	1月	16日改訂

2012 環境活動レポート

Environmental Activity Report 2012.4～2013.3



沖縄国際大学

OKINAWA INTERNATIONAL UNIVERSITY

もくじ

1 大学沿革	1
2 大学概要	2
①事業概要、②学部紹介	3
③大学院紹介	4
④組織機構図	5
⑤キャンパスマップ	6
3 エコアクション21認証・登録範囲	
①登録の概要	7
②EA21実施体制図	8
4 沖縄国際大学環境方針	9
5 環境目標・環境活動計画	10
6 中長期環境目標	11
7 環境目標の実績	12
8 環境負荷使用量の年度別比較	13
9 環境活動計画の取組結果とその評価	15
10 環境への主な取組と負荷の全体像	17
11 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容	
①エネルギー投入、②物資投入	18
③水資源投入、④廃棄物	19
⑤化学物質使用量・保管量	20
⑥キャンパス環境の保全・美化活動	21
⑦教育における環境への取組	22
⑧各学部における環境への取組	23
⑨図書館における環境への取組	27
⑩研究における環境への取組	28
⑪総合研究機構（研究所）における環境への取組	29
⑫環境経営システム等に関する取組	31
⑬学生サークル等による環境活動	34
⑭啓発	42
12 学生の輩出	
①資格称号	43
②資格課程カリキュラム一覧	44
13 地域・社会への還元	45
14 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	46
15 内部監査報告	47
16 代表者による全体評価と見直しの結果	48

1. 大学沿革

沖縄国際大学は、昭和47年2月24日に当時の琉球政府の認可を得て翌2月25日に設置され同年4月23日に地域に開かれた大学として、開学を宣言しました。次いで、昭和47年5月15日、沖縄の本土復帰に伴い、沖縄の本土復帰に伴う特別措置に関する法律（昭和46年12月31日法律第129号）第94条1項〔沖縄の復帰に伴う文部省関係法令の適用の特別措置等に関する政令（昭和47年4月28日政令第106号）第1条第2項〕により学校教育法に規定する大学となりました。



アメリカの施政権下にあった沖縄には私立大学として沖縄大学と国際大学が設置されておりましたが、沖縄大学と国際大学の両校は大学設置基準の上で いろいろと困難な問題があるということから統合へ向けて復帰前に両校の理事会で話し合いがすすめられました。

その結果、両校の理事会で統合整備の計画が成立しました。これに基づき、統合が決議推進され、昭和47年2月24日、琉球政府私立大学委員会によって新設沖縄国際大学が認可されました。

開学当初、旧沖縄大学から学生493名、教員18名、職員21名。旧国際大学から学生1,315名、教員30名、職員34名が移籍し、更に新大学の新入生1,176名、新採用教員20名、新採用職員2名をもって本学の歴史的な第一歩を踏み出し、現在は、学生（大学院生含む）5,744名（平成24年5月1日）、専任教員130名、職員81名にまで発展し、また、4学部10学科、大学院3研究科5専攻、4研究所を擁する規模となり、地域の専門的人材育成を担う大学として、さらに躍進を続けております。



2. 大学概要

建学の精神・理念

■ 建学の精神

「真の自由と、自治の確立」

■ 理念

「沖縄国際大学は、沖縄の伝統文化と自然を大切にし、人類の平和と共生を支える学術文化を創造する。そして豊かな心で個性に富む人間を育み、地域の自立と国際社会の発展に寄与する。」

■ キーワード

「平和・共生」 「個性・創造」 「自立・発展」

使命・目標

■ 本学の使命

沖縄国際大学は沖縄の発展に貢献するために

(1) アジアの十字路に位置する沖縄のポテンシャルを活かし、万国津梁（※）の魁（さきがけ）となる人材を育成します。

(2) 沖縄の個性を発揮させる研究・地域連携を行います。

※「万国津梁」：「世界の架け橋」という意。1458年に尚泰久王が鑄造させ、首里城正殿に掲げていたという鐘に刻まれた銘文の一部。

■ 教育目標

(1) アジアを中心とする国際社会と対話し、理解し発信する能力を育成する教育をします。

(2) 「沖縄」を見つめ探求し、地域と協働する経験を蓄積させる教育をします。

(3) 夢を描き実現する力、環境変化に適応できる力、すなわち人間力を培う教育をします。

■ 地域連携・研究目標

(1) 地域協働、産学官連携を推進します。

(2) 地域における生涯学習の拠点にします。

(3) 沖縄の発展に寄与する研究を推進します。



2. 大学概要

① 事業概要

- | | | |
|--------|---|-----------------------------------|
| 1. 大学名 | : | 学校法人 沖縄国際大学 |
| 2. 代表者 | : | 理事長・学長 大城 保 |
| 3. 所在地 | : | 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号 |
| 4. 組織 | : | |
| 学部 | : | 法学部 経済学部 産業情報学部 総合文化学部 |
| 大学院研究科 | : | 地域文化研究科 地域産業研究科 法学研究科 |
| 総合研究機構 | : | 南島文化研究所 産業総合研究所 沖縄法政研究所 沖縄経済環境研究所 |
| 事務組織 | : | 経営政策室 総務部 教務部 学生部 センター 図書館 |

② 学部紹介



法律学科

地域行政学科

法学部における人材の養成と教育研究上の目的

法学部は、国家と法・政治と社会のあり方を考究することを通じて正義・衡平感覚を涵養することを教育研究上の目的とし、豊かな知識と見識を身につけた人材を養成します。



経済学科

地域環境政策学科

経済学部における人材の養成と教育研究上の目的

経済学部は、社会経済の自立と持続そして発展に寄与することを教育研究上の目的とし、社会の経済と環境について専門的知識を有する教養ある人材を養成します。



企業システム学科

産業情報学科

産業情報学部における人材の養成と教育研究上の目的

産業情報学部は、情報化、国際化が進展する潮流の下、「個性と創造性の尊重」、「自律的学習態度の育成」、「倫理観等人間性教育の重視」、「基礎理論・基本技術に基づく専門教育と研究の高度化」、そして、「地域の自立と国際性の涵養」等を教育研究の目的とし、IT（情報技術）を用いた高度な情報活用能力等の陶冶を通じて、地域産業分野を活性化し又は創造できる情報化人材の育成、並びに、企業経営における高度な経営情報分析能力や国際的ビジネス感覚等を身につけたビジネススペシャリスト等を養成します。



日本文化学科

社会文化学科

人間福祉学科
社会福祉専攻

人間福祉学科
心理カウンセリング専攻

英米言語文化学科

総合文化学部における人材の養成と教育研究上の目的

総合文化学部は、人間・社会・文化を総合的に理解することを教育研究上の目的とし、豊かな知性と感性を持つ人材を養成します。

2. 大学概要

③ 大学院紹介



理念・目的

地域文化研究科は、南島地域の文化を教育研究の対象にし、その地域文化研究が地域住民の発展に貢献することも目的にしております。

それは本学の理念が、沖縄の伝統文化と自然を大切に、人類の平和と共生を支える学術文化を創造し、そして豊かな心で個性に富む人間を育み、地域の自立と国際社会の発展に寄与する、ということを踏まえたものであります。南島文化を研究することにより、アジア文化の伝播ルートやその変容過程等も解明し、その研究成果が南島地域だけでなく、日本の文化や社会の理解に貢献できるというものでもあります。それと共に文化の正しい理解によって沖縄・日本の周辺諸国との国際交流にも役立ち、ひいては地域の平和で活性化した社会形成に寄与するものと思います。



理念・目的

本学の理念は、平和・共生、個性・創造、自立・発展、という3つのキーワードに集約されます。地域産業研究科地域産業専攻は、これらの理念を、経済学及び商学の分野で高次元において体现するため、1998（平成10）年に開設されました。具体的には、現在沖縄県が産業振興を促進する上で直面している課題に実践的に対処するため、人材育成機能と研究機能を併せ持つ一つの拠点を形成し、(1)自らの専門性と複合知識を実社会において体现し地域産業振興の原動力となり得る高度の専門的職業人の養成と、(2)経済学・経営学・マーケティング・会計学・情報等の分野の有機的連携に基づく研究活動の一層の促進、を設置の目的としています。従って、企業・行政等の実務現場で中核的な役割を担える人材を養成することを教育の目標としています。

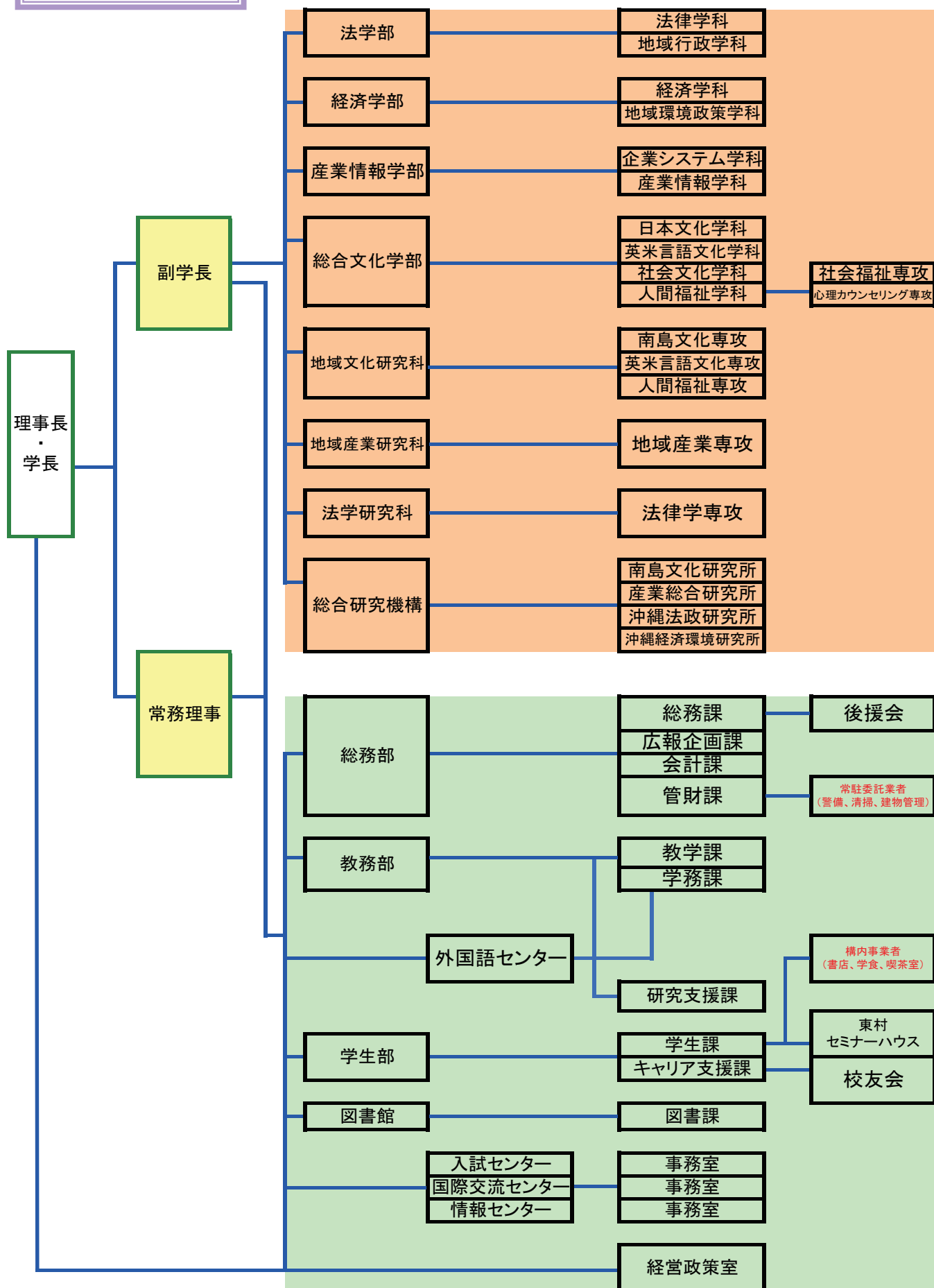


理念・目的

現在、政治・経済・社会の多くの分野でグローバル化が進行しています。21世紀の世界の秩序ある発展は、もはや個別国家の努力だけでは達成できません。一方、視点をわが国に絞って近未来を展望してみても、多くの分野（国家財政、産業、労働問題、少子化、年金等々）で閉塞感が漂っています。このような状況下において知的創造組織としての大学（大学院）の果たすべき役割は、ますます重要性を増しています。法学研究科は、法学の分野からその責任の一端を果たすため、混沌の現代に優れたリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。

3. 大学概要

④ 組織機構図



2. 大学概要

⑤ キャンパスマップ



(A) 正門



(B) 本館

(事務棟)



(C) 3号館

(講義棟)



(D) 5号館

(講義室、研究室
PC室)



(E) 9号館

(講義室、研究室
事務室)



(F) 13号館

(模擬法廷、PC教室
講義室、研究室
事務室)



(G) 3号館別館

(講義棟)



(H) 7号館

(講義棟)



(I) 講堂兼体育館

(6号館)



(J) 図書館

(12号館)



(K) 厚生会館

(10号館)



(後援会事務室、校友会事務室)
(書店、学食、喫茶室、ホール)

(L) サークル棟

(8号館)



東村セミナーハウス

(宿泊室、多目的ホール兼研修室、食堂、多目的広場、テニスコート)



3. エコアクション21認証・登録範囲

「【認証・登録の範囲】 全組織・全活動」

① 登録の概要

【認証・登録番号】 0006450

【大学名】 学校法人 沖縄国際大学

【認証・登録の対象活動範囲】 大学における教育・研究・事務・事業

【代表者】 大城 保 （理事長・学長 環境経営最高責任者）

【所在地】 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号
沖縄県国頭郡東村字平良766番地の2（東村セミナーハウス）

【環境管理責任者】 狩俣 恵一（副学長）

【環境担当者】 當銘 弘道（管財課長）
TEL：098-892-1111 FAX：098-893-1164（管財課）

【事業内容】 学校教育

【事業規模】

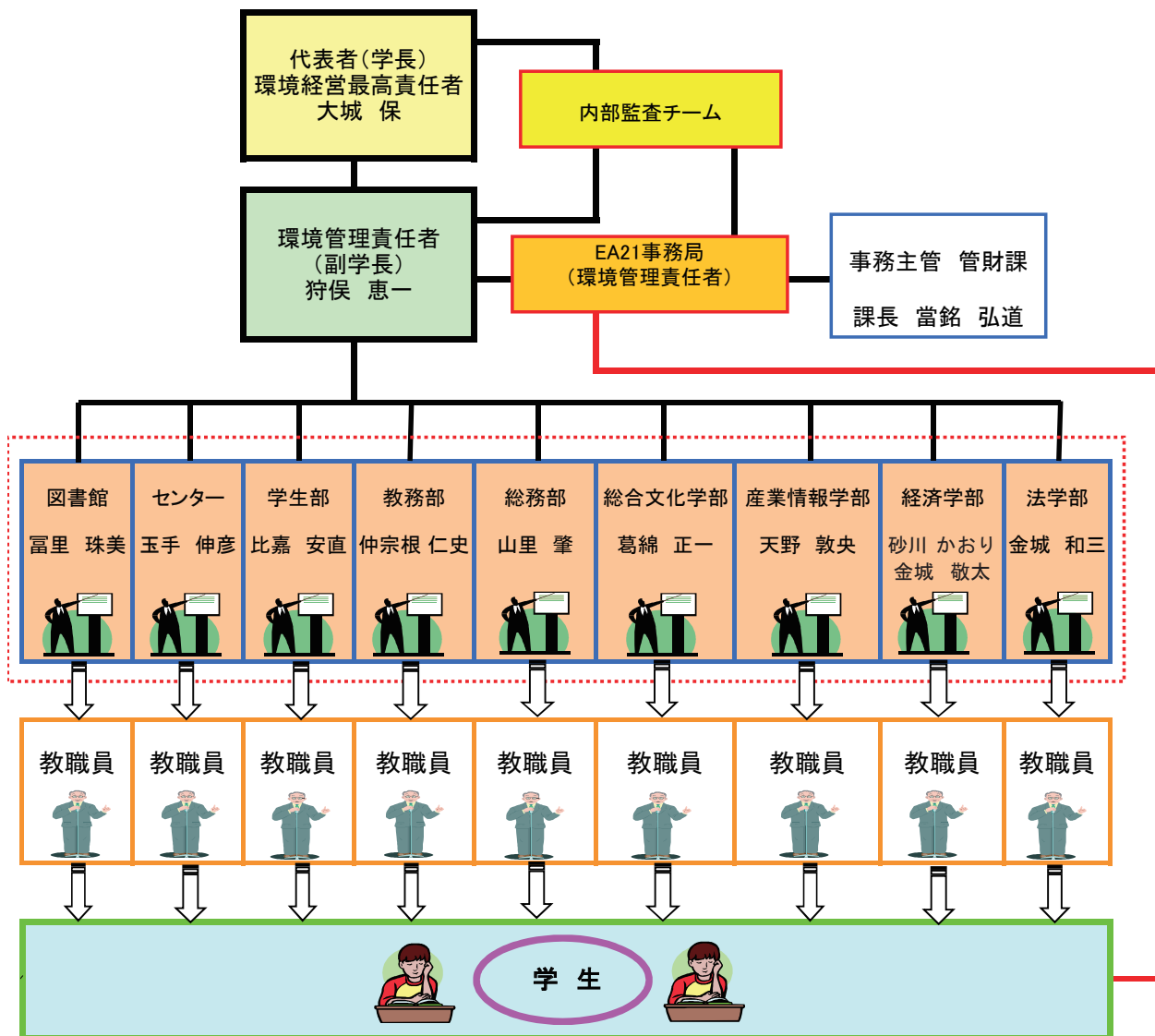
（各年度5月1日付。但し、敷地面積及び床面積については各年度末時点、セミナーハウス利用者は年度合計）

大学キャンパス	単位	2011年度	2012年度
専任教員数	人	132	130
非常勤教員数	人	279	279
専任職員数	人	81	81
非常勤職員数（定数外職員含む）	人	12	14
学部生数	人	5,783	5,744
大学院生数	人	68	71
敷地面積	m ²	118,296	118,296
延べ床面積	m ²	51,007	51,007

東村セミナーハウス	単位	2011年度	2012年度
管理職員数	人	3	3
利用者数	人	2,901	2,842
敷地面積	m ²	44,918	44,918
延べ床面積	m ²	1,395	1,395

3. エコアクション21認証・登録範囲

② EA21実施体制図



役職等	
代表者(学長) 環境経営最高責任者	①組織の規模等の必要性に応じて、環境管理責任者を任命する。 ②環境管理責任者や各部門の責任者が適切に遂行出来るように必要な予算の確保、人員の配置を行う。 ③環境方針・目標の設定をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要であれば改訂を指示。
(副学長) 環境管理責任者	①環境経営システム全体の構築、運用、維持し、代表者へ報告する。 ②大学全体の環境方針及び環境目標を達成出来るように代表者を補佐する。
EA21事務局	PDCA活動を実施することによりEA21の継続的な改善を図る。
EA21担当者	選出部署への環境方針、環境目標及び環境活動計画の周知徹底及びPDCA活動の統括を図る。
教職員	環境方針、環境目標及び環境活動計画を熟知し、それらの達成に向けて環境活動計画を誠実に履行する。
学 生	環境方針・目標及び環境活動計画を熟知し、積極的に参画し、目標達成に向けて環境活動を誠実に履行する。
内部監査チーム (EA21事務局にて任命)	①環境経営システムがEA21ガイドラインの要求事項及び本学が定めたルールに適合しているか、目標設定、環境活動計画が適切に実施され、環境パフォーマンスが向上されているか監査する。 ②内部監査の結果は、学長・副学長へ報告する。

沖縄国際大学環境方針

基本理念

琉球諸島の自然環境は、亜熱帯海洋性気候で多数の島々から成り立っています。やんばるの森や西表島に代表されるように、島ごとに固有の生物種が数多く生息する独自の生態系を形成しています。加えて、独自の生態系を持つ島々で暮らす人々の営みが独特の歴史・文化・社会を築いてきました。

本学は開学以来、沖縄の自然・歴史・文化・社会の恩恵に浴しながら育まれてきました。それゆえに、本学は自然環境の保全に努め、地域の歴史・文化・社会を大切に、次世代に引き継ぐ責務を有すると考えます。よって、本学は自然環境や地域社会特性等に配慮しながら教育研究活動に伴う環境負荷の低減に努め、地域との共生を図り、社会的責任を担うべく様々な方策を模索し、計画の策定、実施、確認、評価・見直しにより学内外の環境問題に適切に対応していくよう努めます。

併せて、21世紀の多様な現代社会において持続的発展可能な循環型社会、自然共生社会、低炭素社会の構築に貢献できる高い見識を身につけ将来を担う人材を育成することを目指します。

環境方針

本学は、基本理念を実現するために、以下の活動に積極的に取り組みます。

- 1 省エネルギー、廃棄物の削減、節水及び雨水利用、グリーン購入等に努め、汚染の防止、環境負荷の低減に取り組みます。
- 2 環境保全・再生に関する教育研究を実践し、環境意識の高い人材を育成します。
- 3 環境に関する公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
- 4 全組織、全教職員、全学生の参画の下に環境経営システムを構築し、PDCAサイクル活動を実施して継続的な改善を図ります。
- 5 環境方針を実現するために、環境目的・目標を設定し、環境保全に取り組むとともに、定期的な見直しを行います。
- 6 環境に関する法規制、条例、協定、学内規定等を遵守します。
- 7 環境方針や環境活動を学生・教職員及び一般社会へ公開します。

平成24年7月25日

沖縄国際大学 学長

文 城 保

5. 環境目標・環境活動計画

活動内容	目的	環境目標	活動計画（必須）	間接的な活動計画等
エネルギー投入	電力、ガス消費量の削減 二酸化炭素排出量の抑制	基準年度比 1%の削減	不在時・未使用時消灯の励行	省エネ型機器への移行 定期的な点検・修繕
			冷房設定温度の適温化（28℃程度）	
			空調機フィルター等の定期的な清掃（個別空調）	
			夏季軽装の励行	
			出入り口ドアの開閉チェック	
			待機時消費電力の低減（パソコン、エアコン等）	
			エレベーターの夜間等の部分的停止	
			階段利用の励行	
			ガス湯沸かし器の使用の見直し	
			エコドライブの推進	
物質投入	用紙類の使用量削減	基準年度比 1%の削減	メール活用によるペーパーレス化	グリーン購入用紙の使用
			会議等資料のスリム化	
			両面コピー・印刷の徹底	
			使用済み用紙の裏面再利用	
	グリーン購入の促進	－	グリーン購入の促進	－
	節水、水の効率的利用	基準年度比 1%の削減	雨水利用	水漏れ箇所の点検・修繕 節水型衛生器具への移行
			地下水利用	
学内環境	キャンパス内美化	－	緑化の推進	放置物品等の撤去
			花壇等の地下水・雨水による散水・除草(建物周り)	
			学内一斉清掃の実施	
廃棄物	廃棄物量の削減	基準年度比 1%の削減	使用済み用紙リサイクルボックスの設置	ゴミの適正処理 (ゴミ集積場所の整備) 廃棄物量の計量
			会議時のマイコップ使用の普及	
			ゴミの分別回収の徹底	
			燃えるゴミ・生ゴミ発生量の抑制	
			新聞や定期刊行物等の購入を必要部数に限定すること や、回覧利用方法を含め見直し	
		リサイクル化 の促進	インク・トナーカートリッジ等のリサイクル化の促進	資源ゴミの リサイクルの確認
			新聞・雑誌・用紙類のリサイクル化の促進	
			缶・びん・ペットボトル等のリサイクル化の促進 再使用可能物品の学内有効利用	
活動内容	目的	活動計画（必須）		間接的な活動計画等
環境教育・研究等	環境教育・研究等	環境教育に関わるカリキュラムの整備		－
		環境に関わる研究の積極的な取り組み		－
	地域社会との連携	環境に関する講演会の実施		－
		地域との連携による環境活動の実施		－
環境経営システム等の構築	実施体制の整備等	法規等に対応する手順の整備		省エネ法との連動 管理標準の作成 内部監査の実施
		環境活動実施時の役割分担・権限等の明確化		
		研修の実施		
		必要な作業手順や運用基準等の整備		
		学外からの意見や苦情等に対応する仕組みの整備		
		緊急時の訓練の実施		
		取引先等への協力依頼		
等による学生サークル活動	学生参画の推進	実施体制の支援		
		エコ大学祭の実施		
		フリーマーケットの実施		
		通学に係る環境への負荷の削減		
啓発		環境に関する啓発ポスター等の作成、掲示		－

6. 中長期環境目標

2013～2015年度 中長期環境目標

↓は、マイナス（削減）、↑は（増加）

活動 内容	目的		単位	前年度 (2011年度)	目標			
					2013年度	2014年度	2015年度	
					前年度実績比 (%)	前年度実績比 (%)	前年度実績比 (%)	
エネルギー投入	二酸化炭素 排出量削減	CO ₂ 排出量 削減	kg-CO ₂	6, 077, 476	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	
		エネルギー使用量 の削減	MJ	64, 281, 763	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	
		電力消費量 削減	kwh	6, 369, 960	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	
		化石燃料 消費量削減	灯油	L	3, 634	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)
			A重油	L	75	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)
			LPガス	kg	1, 796	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)
			ガソリン	L	13, 033	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)
		軽油	L	2, 509	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	
物資投入	用紙類の使用量削減		枚	8, 213, 900	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	
	グリーン購入の促進 (用紙類)		%	グリーン購入 99% (用紙類)	グリーン購入 99. 5% (用紙類)	グリーン購入 99. 7% (用紙類)	グリーン購入 100% (用紙類)	
水資源投入	節水、水の効率的利用		m ³	31, 173	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	
廃棄物	廃棄物量の削減 (3Rの推進)		t	一般： 75. 15 産廃： 26. 87	(↓ 2%)	(↓ 3%)	(↓ 4%)	

7. 環境目標の実績

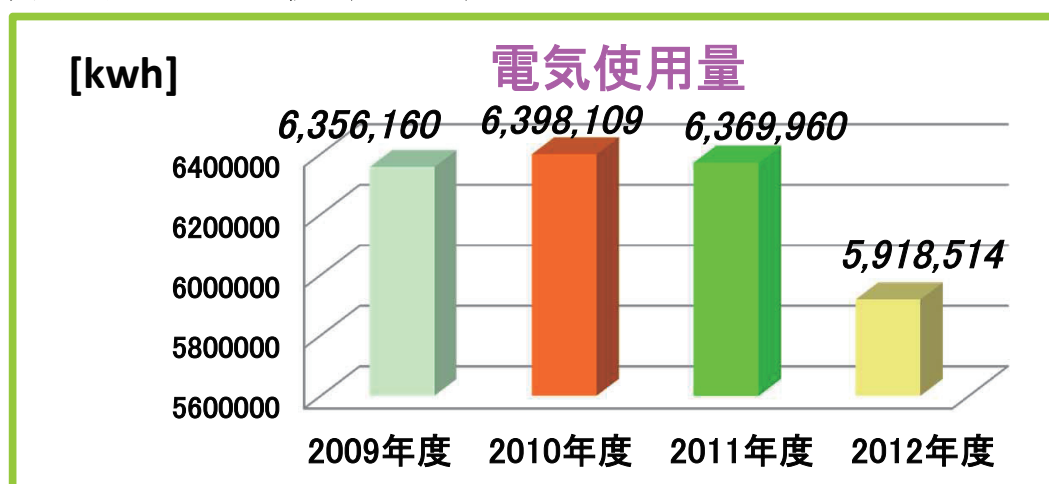
2012年度 環境目標の実績

↓は、マイナス（削減）、↑は（増加）

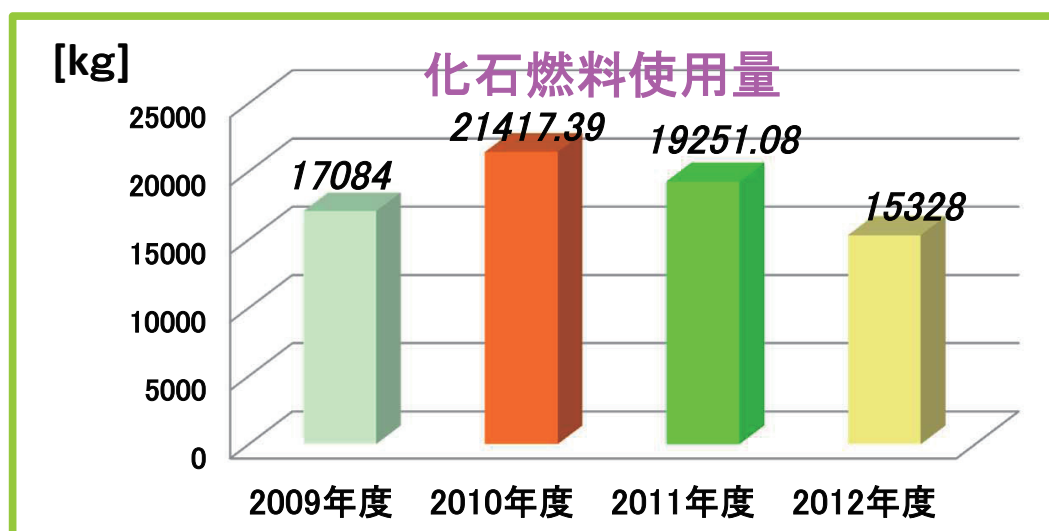
活動内容	目的		単位	基準値 (2011年度実績)	2012年度目標 (基準値比%)	2012年度実績 (目標値比%)	
エネルギー投入	二酸化炭素排出量削減	CO2排出量削減	kg-CO2	6,077,476	6,016,701 (↓1%)	5,641,263 (↓6.2%)	
		エネルギー使用量の削減	MJ	64,281,763	63,638,945 (↓1%)	59,644,091 (↓6.2%)	
		電力消費量削減	kwh	6,369,960	6,306,260 (↓1%)	5,918,514 (↓6.1%)	
		化石燃料消費量削減	灯油	L	3,634	3,598 (↓1%)	4,789 (↑33.1%)
			A重油	L	75	74 (↓1%)	20 (↓72.9%)
			LPガス	kg	1,796	1,778 (↓1%)	1,750 (↓1.5%)
			ガソリン	L	13,033	12,903 (↓1%)	8,252 (↓36%)
	軽油	L	2,509	2,484 (↓1%)	2,267 (↓8.7%)		
物資投入	用紙類の使用量削減		枚	8,213,900	8,131,761 (↓1%)	8,292,300 (↑1.9%)	
	グリーン購入の促進 (用紙類)		%	99% (用紙類)	99.5% (用紙類)	99.3% (用紙類)	
	グリーン購入の促進 (物品類)		%	73.1% (物品類)	75% (物品類)	74.5% (物品類)	
水資源投入	節水、水の効率的利用		m³	31,173	30,861 (↓1%)	31,544 (↑2.2%)	
廃棄物	廃棄物量の削減 (3Rの推進)		t	一般：75.15 産廃：26.87	一般：74.39 (↓1%) 産廃：26.60 (↓1%)	一般：70.70 (↓4.9%) 産廃：32.85 (↑23.4%)	

8. 環境負荷使用量の年度別比較

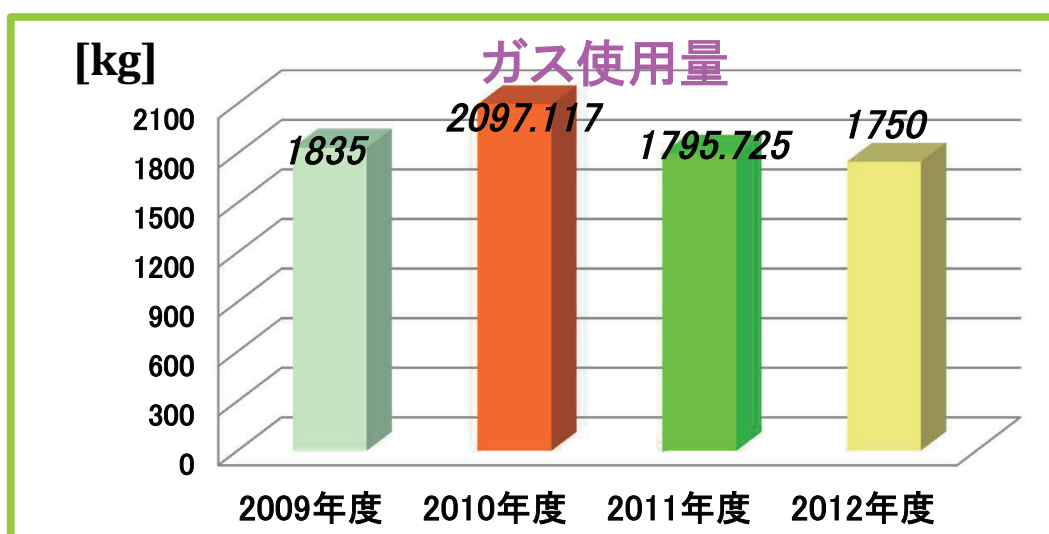
年度別使用量の比較（グラフ）



※上記のグラフデータについては、全体のデータ（本学キャンパス・東村セミナーハウス）



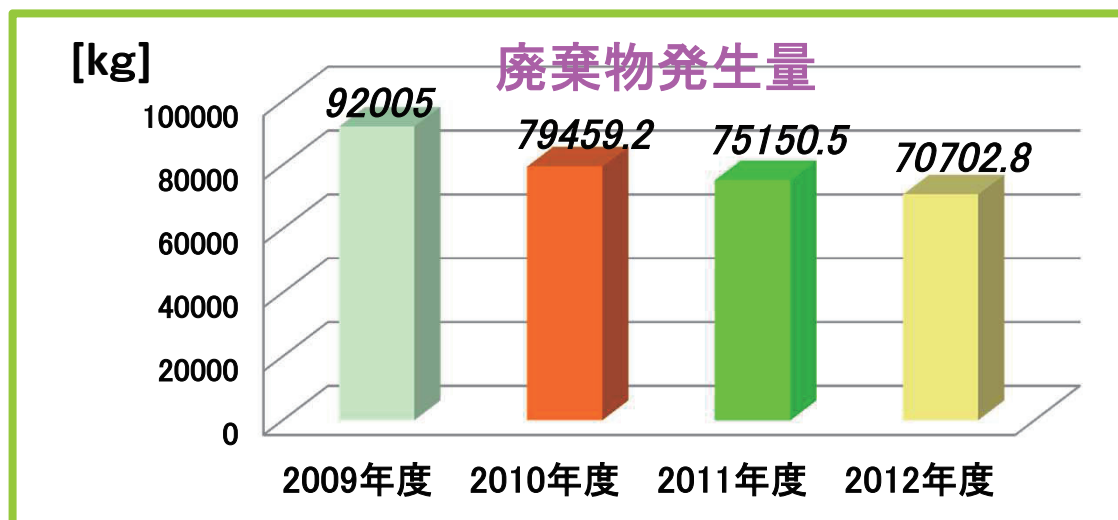
※上記のグラフデータについては、全体のデータ（本学キャンパス・東村セミナーハウス）



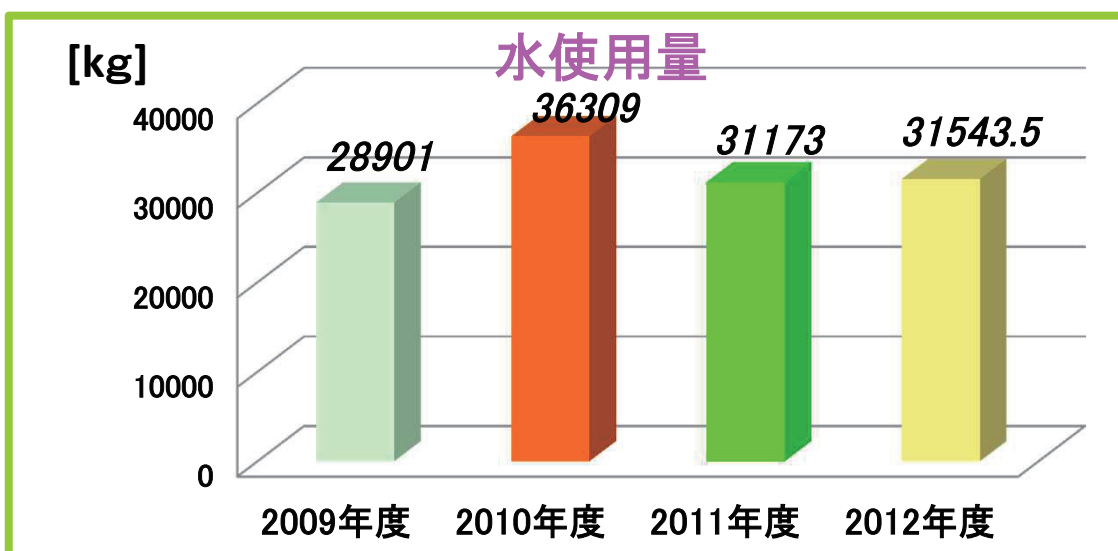
※上記のグラフデータについては、全体のデータ（本学キャンパス・東村セミナーハウス）

8. 環境負荷使用量の年度別比較

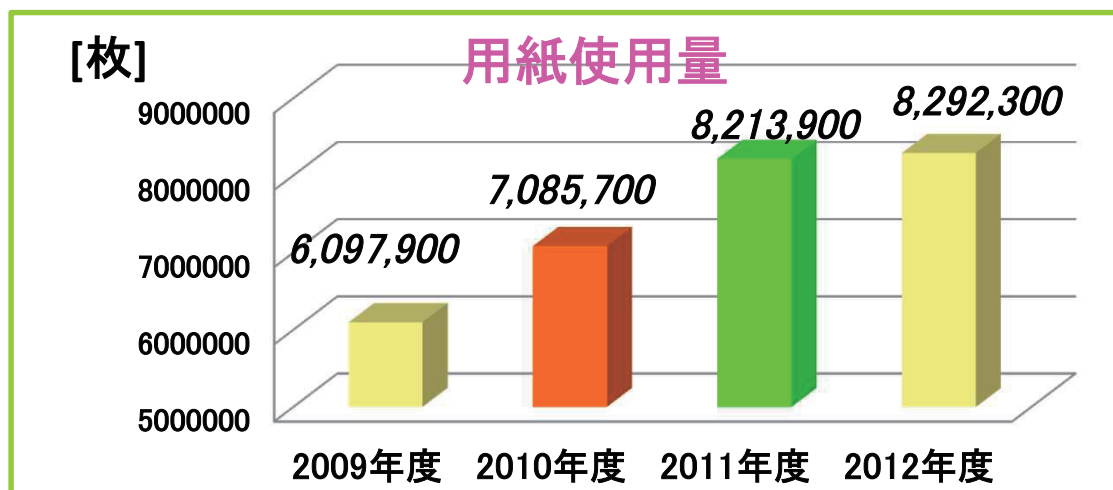
年度別使用量の比較（グラフ）



※上記のグラフデータについては、本学キャンパスのみ



※上記のグラフデータについては、全体のデータ（本学キャンパス・東村セミナーハウス）



※上記のグラフデータについては、本学キャンパスのみ

9. 環境活動計画の取組結果とその評価

取組期間（2012年4月～2013年3月）の環境活動計画及び取組結果を以下に示す。
 （ 取り組んでいる・・・・・・○ さらに取組が必要・・・・・・△ 取り組んでいない・・・・・・× ）

活動内容	環境目的	活動計画	取組結果	評価及び今後の対応
エネルギー投入	電力、ガス消費量の削減、 二酸化炭素排出量の抑制	不在時・未使用時消灯の励行	○	取組を行った結果、 全体的に目的を達成する事が出来ました。 エコドライブを大学全体で心掛けガソリン使用量を削減する事が出来ました。カーエアコンの設定温度の適温化、一定速度の走行が削減に繋がり、またその他のキャンパス内での細かい気配りが目標達成に繋がりました。 次年度も継続して、活動していきたいと思います。
		冷房設定温度の適温化（28℃程度）	○	
		空調機フィルター等の定期的な清掃（個別空調）	○	
		夏季軽装の励行	○	
		出入口ドアの開閉チェック	○	
		待機時消費電力の低減（パソコン、エアコン等）	○	
		エレベーターの夜間等の部分的停止	○	
		階段利用の励行	○	
		ガス湯沸かし器の使用の見直し	○	
		エコドライブの推進	○	
物質投入	用紙類の使用量削減	メール活用によるペーパーレス化	○	2012年度については、用紙以外のグリーン購入に力を入れ、継続してきました。今後は、紙の使用量削減を含め、より一層努力していきます。
		会議等資料のスリム化	△	
		両面コピー・印刷の徹底	△	
		使用済み用紙の裏面再利用	△	
	グリーン購入の促進	グリーン購入の促進	○	
水資源投入	節水、水の効率的利用	雨水利用	○	地下水・雨水の使用については、今年度も積極的に使用しています。継続して利用し、水資源の無駄を無くしていけるように努めます。
		地下水利用	○	
学内環境美化	キャンパス内美化	緑化の推進	○	キャンパス内の自然環境の充実を維持出来るように今後も努めていきます。学内一斉清掃についても継続して取り組んでいきます。
		花壇等の地下水による散水・除草(建物周り)	○	
		学内一斉清掃の実施	○	
廃棄物	廃棄物量の削減 (3Rの推進)	使用済み用紙リサイクルボックスの設置	○	マイコップの使用をはじめ、ゴミの排出抑制、増加させない意識を教職員、学生が持つて行動しています。
		会議時のマイコップ使用の普及	○	
		ゴミの分別回収の徹底	○	
		燃えるゴミ・生ゴミ発生量の抑制	○	
		新聞や定期刊行物等の購入を必要部数に限定することや、回覧利用方法を含め見直し	○	産業廃棄物の排出も今年度は抑制する事が出来ました。今後も継続して取り組んでいきます。
		インク・トナーカートリッジ等のリサイクル化の促進	○	
		新聞・雑誌・用紙類のリサイクル化の促進	○	
		缶・びん・ペットボトル等のリサイクル化の促進	○	
		再使用可能物品の学内有効利用	○	

9. 環境活動計画の取組結果とその評価

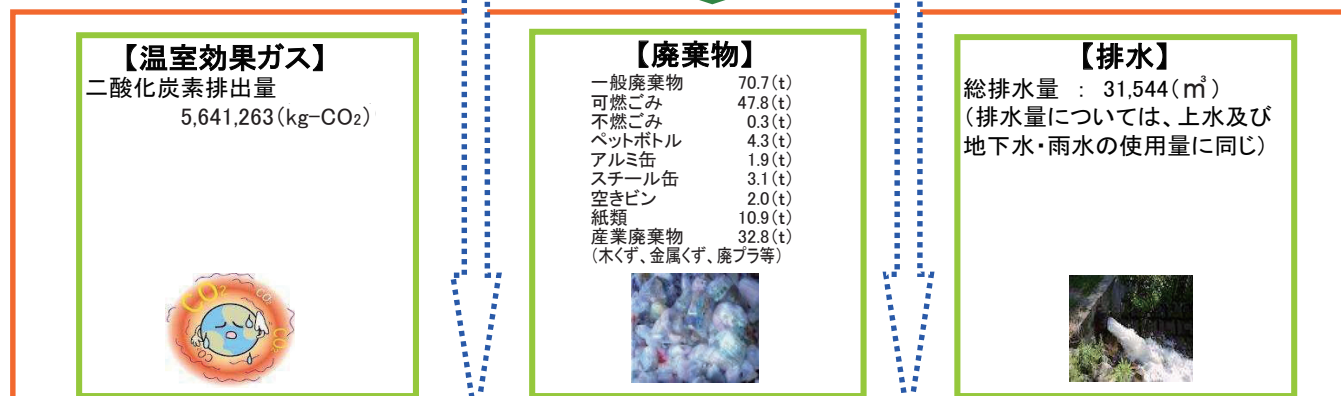
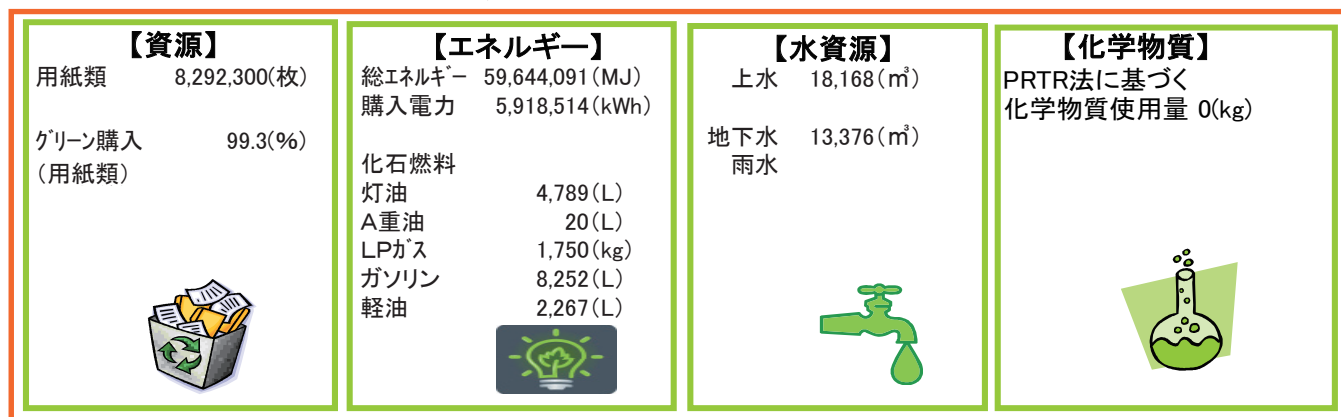
取組期間（2012年4月～2013年3月）の環境活動計画及び取組結果を以下に示す。

（ 取り組んでいる・・・・○ さらに取組が必要・・・・△ 取り組んでいない・・・・× ）

活動内容	環境目的	活動計画	取組結果	評価及び今後の対応
環境教育・研究・ 環境保全活動等	環境教育・研究等	環境教育に関わるカリキュラムの整備	○	概ね活動計画通りに取組出来たと思います。 今後も積極的に環境教育の整備に努めていきます。
		環境経営に関わる研究の積極的な取り組み	○	
	地域社会との連携	環境に関する講演会の実施	○	大学入門講座等を開催し、地域との連携を図りました。 講演会や講座を今後も充実させ、出来る限り地域へ還元出来るように努めていきます。
		地域との連携による環境活動の実施	○	
環境経営システム等の構築	実施体制の整備等	法規等に対応する手順の整備	○	活動計画通りに適性 に取組が実施されました。前年度に引き続き研修の実施や緊急時の訓練実施などについても充実した取組が行われました。 学生への研修やレクチャーも実施出来、EA21への理解も深まりました。次年度も継続して取組を実施し、努力していきます。
		環境活動実施時の役割分担・権限等の明確化	○	
		研修の実施	○	
		必要な作業手順や運用基準等の整備	○	
		学外からの意見や苦情等に対応する仕組みの整備	○	
		緊急時の訓練の実施	○	
		取引先等への協力依頼	○	
学生サークル等による 環境活動	学生参画の推進	実施体制の支援	○	活動計画通りに適性 に取組が実施されました。大学際では、積極的にゴミの分別が行われ環境への配慮を十分に行っていました。 フリーマーケットの実施が僅かだった為、次年度で積極的に活動し、実践してもらいたと思います。
		エコ大学祭の実施	○	
		フリーマーケットの実施	△	
		通学に係る環境への負荷の削減	○	
啓発	環境に関する啓発	環境に関する啓発ポスター等の作成、掲示	○	概ね活動計画通りに取組出来たと思います。削減効果の見える化を図ったパンフレットを配布するなど、今後も積極的に取り組みます。

10. 環境への主な取組と負荷の全体像

□ マテリアルバランス (2012年度:2012.4~2013.3)



<地域・社会への還元>

■ 学生の輩出

- ・ 環境マインドの高い卒業生
- ・ 環境に関する (専門) 知識を有する卒業生

■ 環境に関する教育

■ 環境に関する大学としての社会貢献



11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

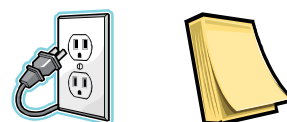
① エネルギー投入

活動内容	目的	単位	基準値 (2011年度実績)	2012年度目標 (基準値比%)	2012年度実績 (目標値比%)
①エネルギー投入	CO ₂ 排出量 削減	kg-CO ₂	6, 109, 933	6, 016, 701 (↓1%)	5, 641, 263 (↓6.2%)
	エネルギー使用量 の削減	MJ	64, 651, 171	63, 638, 945 (↓1%)	59, 644, 091 (↓6.2%)
	電力消費量 削減	kwh	6, 398, 109	6, 306, 260 (↓1%)	5, 918, 514 (↓6.1%)
	二酸化炭素排出量削減 化石燃料消費量削減	灯油	L	3, 059 (↓1%)	4, 789 (↑33.1%)
		A重油	L	74 (↓1%)	20 (↓72.9%)
		LPガス	kg	1, 778 (↓1%)	1, 750 (↓1.5%)
		ガソリン	L	12, 903 (↓1%)	8, 252 (↓36%)
		軽油	L	2, 484 (↓1%)	2, 267 (↓8.7%)

【次年度の取組内容】

CO₂排出量については、目標に対して約6.2%削減という結果になり、目標を大きく達成する結果となりました。削減となった要因としては、5号館の空調設備を集中ダクト式から個別管理空調システムに変更した事が大きな要因です。しかし、化石燃料消費量については、灯油が上昇しました。要因としては、課外活動に伴うシャワー利用の増加が主な原因です。体育館やサークル棟のシャワー利用が一番の増加要因です。グラウンドやトレーニングルームのリニューアルなど施設が充実した事で利用者が増加したと思われます。今後につきましては、対策を常に考え、更に取り組みを強化する必要があると思われます。今後も教育・研究活動の充実や学生への支援向上を努めるとともに、無駄な消費を削減出来るよう心掛け、エコアクション21活動を充実させ、推進していきたいと思ひます。

② 物資投入



活動内容	目的	単位	基準値 (2011年度実績)	2012年度目標 (基準値比%)	2012年度実績 (目標値比%)
②物資投入	用紙類の使用量削減	枚	8, 213, 900	8, 131, 761 (↓1%)	8, 292, 300 (↑1.9%)
	グリーン購入の促進 (用紙類)	%	99% (用紙類)	99.5% (用紙類)	99.3% (用紙類)
	グリーン購入の促進 (物品類)		73.1% (物品類)	75% (物品類)	74.5% (物品類)

【次年度の取組内容】

2013年度活動計画としては、2012年度の取り組みを見直し、用紙類の使用量削減により力を入れたしたいと思います。今年度につきましては、2011年度より増加してしまい、大学全体の努力が更に必要となりました。使用量が増加している主な原因の1つに講義等や会議資料、各種資料のコピー量の増加も一因ですので、電子媒体を利用したペーパーレス化を推進すると共に両面コピーや両面印刷を積極的に啓発し、無駄をなくす事が今後も重要になり、心掛けが更に必要になってくると思ひます。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

③ 水資源投入

活動内容	目的	単位	基準値 (2011年度実績)	2012年度目標 (基準値比%)	2012年度実績 (目標値比%)
③水資源投入	節水・水の効率的利用	m ³	31,173	30,861 (↓1%)	31,544 (↑2.2%)

【次年度の取組内容】

2012年度については、使用量が2011年度を上回る結果となりました。
 主な理由としては、課外活動の増加に伴うシャワー利用時間の増加やセミナーハウス利用者の増加に伴うシャワー及び調理等による水使用量の増加があげられます。また昨年は、台風の来沖も多く、通過後の清掃等や植栽工事に伴う散水等による水使用量の増加も主な要因の1つです。少しでも無駄を省き、節水に力を入れられるように努めていきたいと思っています。
 2013年度についても、地下水・雨水の有効利用を継続し、今後も節約を心掛けていきたいと思っています。



④ 廃棄物

活動内容	目的	単位	基準値 (2011年度実績)	2012年度目標 (基準値比%)	2012年度実績 (目標値比%)
④廃棄物	廃棄物の削減 (3Rの推進)	t	一般：79.15 産廃：26.87	一般：74.39 (↓1%) 産廃：26.60 (↓1%)	一般：70.70 (↓4.9%) 産廃：32.85 (↑23.4%)

「使用済リサイクルボックス」を設置し、使用済み用紙の古紙回収用ボックスとして利用しています。
 その他にも、1度使用したファイルを再利用するなど、道具を大切にすることにより環境に配慮する事を心掛けています。



写真1 (使用済リサイクルBOX)



写真2 (使用済みファイルリユース)



写真3 (エコキャップの回収)

リサイクル業者（シュレッター車）による古紙回収



リサイクル業者（金属類）による金属回収 ※無料



※機密文書、重要文書のみ、シュレッター処理を行い、最終的に回収され、リサイクルされます。

【次年度の取組内容】

一般廃棄物については、4.9%の減量を達成する事が出来ました。
 少しずつではありますが、学生のエコに対する意識が高まり、弁当のゴミや空き缶などが減少の傾向にあります。
 また、普段から「リサイクル出来ないごみ（可燃ごみ、不燃ごみ）」及び「資源ごみ（ペットボトル）」の分別を徹底しております。その効果が少しずつ、浸透してきたと考えます。しかし、産業廃棄物については、逆に増加してしまい、今後の課題となりました。増加原因としては、台風が例年より多く来沖し、木くずや枯葉が大量に発生した事が主な原因です。自然の影響にさらされ、対策する事は、難しい事ではありますが、台風対策をしっかり行い、出来るだけ木くずや瓦礫などが発生しないように日頃から見回りを怠らないように努力していきたいと思っています。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑤ 化学物資使用量・保管量

本学の化学物質は、講義（実験等）で用いる水質分析関連等試薬が主あり、保管、使用についても以下の表のとおり微量です。PRTR法及び毒物及び劇物取締法に基づき、PRTR法対象物質及びその他の化学物質等については、本学地域環境政策学科担当教員により3号館実験室において、適性に保管、管理されています。

使用済みの廃液、廃試薬等の廃棄（排出）については、使用済み廃液、廃試薬等の量が僅かなため、専用ポリ容器に厳重に保管、管理し、数年に一度程度、廃棄物として、専門の処理業者に回収、処理を依頼しています。

（2011年度の回収、処理はありません）。従って、大気、水域、土壌等、環境への排出（漏洩）はありません。

2012年度 化学物質使用量

化学物質の種類		単位	使用量	保管量
化学物質使用量	アジ化ナトリウム	g	0	97
	塩酸	ml	0	1000
	硝酸銀	g	0	540
	水酸化カリウム	g	0	465
	水酸化ナトリウム	g	0	425
	硫酸	ml	0	880
	ヨウ素酸カリウム	g	0	50
	アセトン	ml	0	500
	ヘキサン	ml	0	3000
	過マンガン酸カリウム	g	0	497.5



【次年度の取組内容】

次年度についても排出（漏洩）がないように、注意していきたいと思います。実験室の担当教員の先生方と密に連絡を取り、保管、管理を徹底したいと思います。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑥ キャンパス環境の保全・美化活動

■ キャンパス環境の保全・美化活動

沖縄国際大学は、植物や緑が多い、自然豊かなキャンパスです。
2011年に引き続き、快適な環境を作れるように学内緑化を大切にしてきました。
今後も学生・教職員・業者等一丸となり、大学内の自然環境の保全に努めます。



● 学内一斉清掃の実施

職員により週1回出勤時間前に学内及び周辺の清掃活動を実施しています。
日によって参加者の増減はありますが、意欲のある職員で継続実施しています。
更に地域への「エコアクション21活動」をPRし、地域との連携を深めていきたいと思っています。



● 樹木シュレッダーの活用

樹木シュレッダーを活用し、学内緑化をより良くする為に力を入れています。
シュレッダーされた樹木は、花壇肥料の活用や雑草増伸の抑制にも繋がっています。
今後も大切に活用し、学内の植栽環境を良くしていけるよう努めていきます。



【次年度の取組内容】

次年度以降も引き続き、学内一斉清掃活動をはじめとした、学内美化に取り組んでいきたいと思っています。
学内樹木、花木類を増やし、緑豊かなキャンパスを維持にしていけるよう努めていき、学生の憩いの場を提供できるようにより一層努めていきたいと思っています。
学生が過ごしやすい快適なエコキャンパスになるように積極的に取り組んでいきます。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑦ 教育における環境への取組

●環境関連「共通科目」開講科目

共通科目とは、学部学科に関係なく全ての学生が自由に受講出来る科目群です。
 人文系列・社会系列・自然系列の教育内容に加え、本学の教育理念である「国際化」・「情報科」・
 「地域化」に対応する9つの科目群「人間・文化科目群」、「自然・環境科目群」、「情報科学科目群」、
 「テーマ科目群〔普天間基地〕」、「外国語科目群」、「社会・生活科目群」、「国際理解科目群」、
 「沖縄関係科目群」、「健康スポーツ科目群」から構成されています。

2011年度開講「共通科目」のうち、環境に関する主な科目は以下の科目です。

区分	科目名	受講者総数
自然・環境科目群	生物学Ⅰ	3,122
	生物学Ⅱ	
	地学Ⅰ	
	地学Ⅱ	
	化学Ⅰ	
	化学Ⅱ	
	自然科学概論Ⅰ	
	自然科学概論Ⅱ	
	環境科学Ⅰ	
	環境科学Ⅱ	
	生物学ゼミ	
テーマ科目群「普天間基地」	基地と自然環境	2,373
沖縄関係科目群	沖縄の自然Ⅰ	
	沖縄の自然Ⅱ	
	沖縄の地理	
国際理解科目群	国際平和学Ⅱ	
	ヨーロッパ研究Ⅱ	
社会・生活科目群	地理学Ⅰ	
	地理学Ⅱ	
	ボランティア論	
	NPO・NGO入門	
人間・文化科目群	エコロジーの思想	
合計科目数	22科目	5,495

2012年度開講の主な大学院環境関連科目

区分	科目名	受講者総数
大学院地域産業研究科	環境経済学特殊研究Ⅰ	6
	環境経済特論	

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑧ 各学部における環境への取組

□ 環境教育・研究等

経済学部

経済学部 環境方針

経済学科 / 地域環境政策学科

大量生産、大量消費および大量廃棄の社会経済システムのなかで自然環境が予測を上回る速度で劣化している。そのような状況に鑑み本学の環境方針に則り、環境問題に適切に対応することにより持続可能な経済発展および環境保全に貢献できる人材を育成し地域社会へ輩出していく。その達成のために本学部では環境保全活動に加えて環境に関する科目を提供しながら教育研究活動を行う。

経済学部 環境目標・環境活動計画

活動内容	環境目標	活動計画
エネルギー 使用量等の削減	電気使用量、水使用量、廃棄物発生量については大学全体の削減目標を達成する。	大学全体の活動計画に準ずる。
教育・研究	1. 開講している環境関連科目数を維持し、履修する学生数を増やすことにより、学生の環境に関する意識を高めるとともに、教育と研究活動の充実を図る。	新入生のメンバーシップトレーニングや全学年対象の学期始めのオリエンテーションにおいて環境の重要性を指導することにより履修生の増加を図る。また、環境関連科目以外でも積極的に環境問題を取り入れて、学生の環境に対する意識を高める。
	2. 経済学部が実施している環境関連の出前講座等を通じて、市民との連携を強化し、調査・研究を進める。	本学部が実施している公開講座、出前講座、大学入門講座等を活用して、市民、学生とともに調査・研究を進める。また、地域社会との関わりを深める為に市民や学生と連携した環境活動に取り組む。
	3. 沖縄国際大学沖縄経済環境研究所と連携して地域の自然環境、社会環境に関する研究を積極的に推進する。	沖縄経済環境研究所が実施するプロジェクト等に参画して地域の環境に関する理解を深めるとともに地域住民と連携して環境の保全を図る。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑧ 各学部における環境への取組

環境に関する取り組み【経済学部経済学科】

報告者：エコアクション21運営委員
経済学部経済学科：浦本 寛史

経済学部経済学科では、学生に対し「環境に関する意識向上」を図るために授業をとおして以下のような取り組みを実施しました。

【前期】

(崎浜 靖先生)

1. 礎演習Ⅲ
学習内容 : 「宜野湾市・中城村の自然と土地利用」(巡検)
: 地形(石灰岩地形、ドリーネ、中城村の土砂崩落現場)・
水文環境(湧水)、土地利用(都市景観、田芋畑)など。
2. 人文地理学概論
学習内容 : (教職科目、巡検)
: 「宜野湾市我如古の地形・水文環境と集落景観」
「沖縄市中心市街地の景観変遷」

(浦本 寛史先生)

3. 基礎演習Ⅲ
学習内容 : 「PCM手法による問題解決」
: グループに分けて、環境に関する問題点を分析し、その解決方法を考察。
問題系図作成、目標系図作成など。

【後期】

(崎浜 靖先生)

4. 人文地理学特講
学習内容 : (教職科目、巡検)
: 「宜野湾市嘉数・愛知の地形・水文環境と集落立地」
5. 集落地理論Ⅱ
学習内容 : (教職科目・専門選択科目、巡検)
: 「本部町における地形と集落景観」
*2月巡検に実施予定。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑧ 各学部における環境への取組

総合文化学部

総合文化学部 環境方針

日本文化学科 / 英米言語文化学科 / 社会文化学科 / 人間福祉学科

今日の環境問題に対応するため、本学部では環境保全活動に加えて、環境に関する科目を提供しながら教育研究活動を行う。

総合文化学部 環境目標・環境活動計画

活動内容	環境目標	活動計画
エネルギー使用量等の削減	電気使用量、水使用量、廃棄物発生量については大学全体の削減目標を達成する。	大学全体の活動計画に準ずる。
教育・研究	開講している環境関連科目数を維持し、履修する学生数を増やすことにより、学生の環境に関する意識を高めるとともに、教育と研究活動の充実を図る。	新入生のメンバーシップトレーニングや全学年対象の学期始めのオリエンテーションにおいて環境の重要性を指導することにより履修生の増加を図る。また、環境関連科目以外でも積極的に環境問題を取り入れて、学生の環境に対する意識を高める。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑧ 各学部における環境への取組

法学部

☐ 法学部 環境方針

法律学科 / 地域行政学科

法学部では、法律や政治を中心とする学部教育の観点に基づいた、循環型社会構築にむけた人材育成と、地域社会への貢献を目指す。

法学部 環境目標・環境活動計画

活動内容	環境目標	活動計画
エネルギー使用量等の削減	電気使用量、水使用量、廃棄物発生量については大学全体の削減目標を達成する。	大学全体の活動計画に準ずる。 また、教員・学生によって、施設設備等で無駄な電気の使用があれば、消灯する等、削減対応に努める。
教育・研究	1. 法学部全構成員によるエコアクション21の取組についての周知を図り、推進に向けての基盤作りをする。	教員は教授会の場を利用し、学生は、年度始めに学年ごとで開催されるオリエンテーション時に本学のエコアクション21の取組についての周知し、法学部全構成員が取組むべき課題であることを認識させる。
	2. 法学部専門科目を通して、学生の環境に対する意識向上をねらった取り組み実施を心がける。	講義科目や演習科目を利用し、学生たちが取り組む課題に、環境に関心をもたせる取り組み・企画を盛り込むよう心がける。

産業情報学部

☐ 産業情報学部 環境方針

企業システム学科 / 産業情報学科

産業・情報・ビジネスに関する教育研究において、情報化・国際化の進展とともに、環境問題にも適切に対応することが求められる。当学部では、本学の環境方針を遵守し、環境保全や環境との調和に配慮した、企業社会との関わりを重視する人材育成・教育研究活動を展開する。

※産業情報学部環境目標、環境活動計画については現在策定中

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑨ 図書館における環境への取組

■ 図書館における環境への取組



環境関連図書の受入総数

2010年度 212冊

2011年度 99冊

2012年度 96冊

2008～2012年度分以下総数855

図書館利用は、地域の方もご利用可能です。
環境関連図書の整備・充実を積極的に推進し、情報収集及び教育等のサービス向上に努めています。

【開館時間】

		開館時間	3階AV・PCコーナー
月曜日から金曜日		8時～23時 (※学外の方は9時から23時) ※8時から8時半は1階のみ開館	8時30分～22時30分
土曜日		9時～22時	9時～21時30分
長期休暇期間	平日	9時～21時	9時～20時30分
	土曜日		
日曜日		10時～18時	利用できません
休館日		定例休館日（毎月第1金曜日） 本学創立念日（2月25日） 慰霊の日（6月23日） 国民の祝日 年末年始 その他学内行事など	

● 「エコアクション21・図書環境フェア」



図書館では、「エコアクション21」環境フェアを年1回実施しており、所蔵している環境関連図書等を紹介する等、学内外に対して、環境に対する意識向上に一役買っています。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑩ 研究における環境への取組

■ 研究における環境への取組

2012年度 環境をテーマとした本学教員の主な研究は以下の通りです。

学部	所属	氏名	研究テーマ
経済	地域環境政策	呉 錫畢	地域開発と環境問題
		名城 敏	住環境における二酸化窒素の濃度変化に関する研究
		新垣 武	炭酸カルシウムの溶解について
		上江洲 薫	産業界における環境保全対策と都市環境の特性
		砂川 かおり	米軍基地の環境問題、大山地区の開発計画と農地利用・保全の可能性
		山川 彩子	琉球列島の海岸環境と海洋生物の生息状況に関する研究
総合文化	社会文化	宮城 邦治	東アジアにおける環境保全に関する研究

(前年度 7 テーマ・7名)

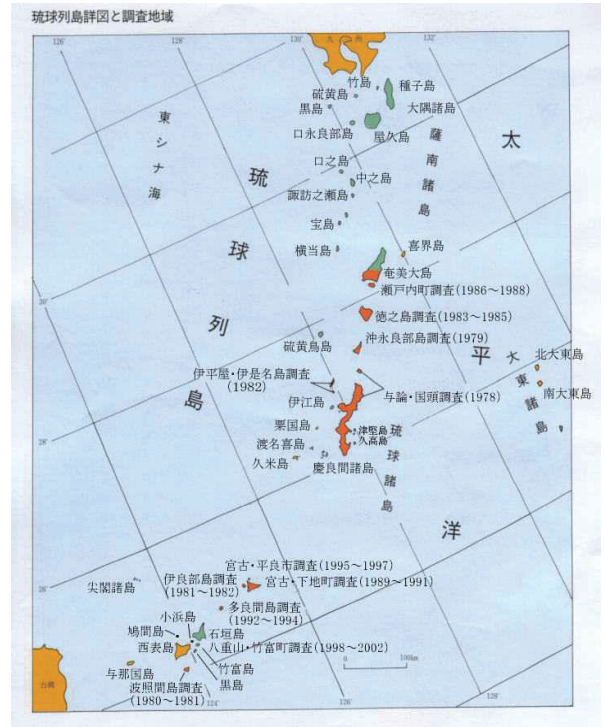
11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑪ 総合研究機構(研究所)における環境への取組

沖縄の地理的位置と調査地域



琉球列島詳図と調査地域



■ 南島文化研究所

2012年度 南島文化研究所の環境関連事業活動は以下の通りです。

●【南島研】第34回南島文化地域学習「沖縄国際大学周辺の自然と文化」を開催しました

日 時：2012年7月8日

場 所：宜野湾市

テーマ：「沖縄国際大学周辺の自然と文化」

南島文化研究所では、7月8日に第34回南島文化地域学習を開催いたしました。今年には本学創立40周年を記念して大学所在地の宜野湾市宜野湾及び近隣の佐真下・我如古地域の地名や自然、歴史等について学びました。

宜野湾市教育委員会の仲村健氏・金城良三氏をはじめ本研究所所員・特別研究員が講師を務めそれぞれの分野から解説して頂きました。



11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

① 総合研究機構(研究所)における環境への取組

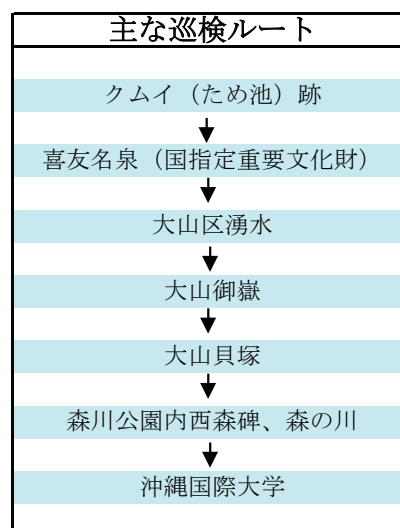
●【南島研】第35回南島文化地域学習を開催いたしました

日 時：2013年2月3日

場 所：宜野湾市喜友名・大山

テーマ：「宜野湾市喜友名と大山の自然と文化」

「宜野湾市喜友名と大山の自然と文化」を開催いたしました。
宜野湾市喜友名区を同市教育委員会の仲村健氏・金城良三氏を講師に 喜友名の石獅子群、集落内の水利施設跡、国指定重要文化財の喜友名泉(チンナーガー)等を案内して頂きました。



■ 沖縄経済環境研究所

2012年度 沖縄経済環境研究所の環境関連事業活動は以下の通りです。

●【経環研】2012年度 第2回講演会「沖縄の新たな基地騒音問題－オスプレイの低周波音について－」を開催致しました

日 時：2013年3月16日

場 所：沖縄国際大学3号館 (別館)

テーマ：「沖縄の新たな基地騒音問題－オスプレイの低周波音について－」

沖縄経済環境研究所では2013年3月16日 (土) に琉球大学工学部准教授の渡嘉敷健氏を講師にお迎えして、「沖縄の新たな基地騒音問題－オスプレイの低周波音について－」をテーマに平成24年度第2回講演会を開催致しました。



11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑫ 環境経営システム等に関する取組

■ 環境経営システム等の構築（研修の実施）

2012年5月25日（金）開催「EA21学生向け研修会」

本学、総合文化学部学生環境委員に対し、学生向け研修会を実施しました。エコアクション21の仕組みをはじめ、具体的内容について研修を実施し、学生への意識向上を高める事が出来ました。

【主な研修内容】

- エコアクション21とは？
- エコアクション21の取組について



2012年10月15日（月）開催「EA21委託業者等研修会」

構内事業者（書店・学食・喫茶室経営者）、常駐委託業者（警備・清掃・建物管理）、また東村セミナーハウス管理人、後援会事務室、校友会事務室より出席いただき、学内全体でのエコアクション21活動協力、実施を再確認しました。

【主な研修内容】

- ECOクイズの実施について
- 沖縄国際大学経営マニュアルの説明について
- EA21の説明について
- ミニパンフレットについて
- 沖縄国際大学における環境負荷状況について
- 各委託業者の環境取組状況について
- 今後の取組について



11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑫ 環境経営システム等に関する取組

2012年11月16日（金）開催「学生向けEA21研修会」

エコアクション21学生向け研修会は、沖国大祭をエコ大学祭へと発展させるため、大学祭実行委員会と協議し、大学祭学生総会の中で、「学生から学生に向けての研修」という形をとりました。大学祭実行委員会の喜久山さんより説明が行われ、多くの学生へ理解が深まりました。

【主な研修内容】

- エコアクション21とは？
- 本学が取り組んでいる環境への主な取組について
- 大学祭での具体的なエコ活動について



2013年3月7日（水）開催「EA21担当者向けエコドライブ教習会」

エコアクション21担当者向けにエコドライブ教習会を実施しました。

【主な教習の概要】

- エコドライブの運転操作について
- エコドライブ補足説明について
- 走行結果レビューについて
- 質疑応答について



11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑫ 環境経営システム等に関する取組

■ 緊急時対応訓練（消防・防災訓練）の様子
2012年12月7日 実施（3号館2階より火災が発生したと想定）



初期消火訓練



避難説明①



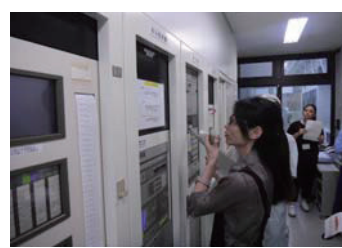
避難説明②



本部からの通報連絡



避難訓練



緊急放送



消火訓練①



消火訓練②



応急救護

※図書館については、6月・12月の休館日（毎年2回）に消防避難訓練・消火訓練を実施。
※東村ヒナハウスにおいては、6月13日に同様に訓練を実施。

■ 救急救命講習の様子



AED講習（講習前の説明の様子）



AED講習の様子

【次年度の取組】

2013年度も継続して活動計画に基づき、学生、教職員等、協力して取り組んでいきます。
そして、エコアクション21の更なる充実を図り本学の環境活動意識を高めていきたいと思ひます。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

■ 実施体制の支援(2012年11月24日(土)、25日(日))

2012年11月24日、25日の二日間、第41回沖国大祭が開催されました。大学祭実行委員会の学生と「大学祭」を成功させるために協議を重ね、またコネクションプロデュース（環境サークル）の学生を中心にゴミ分別を徹底させる為、学生に対する周知等について打ち合わせを行いました。参加する学生、また来場者にも環境に配慮した大学祭が浸透しつつあると感じられます。ゴミ減量化、分別の徹底だけでなく、節電、節水についても意識できるイベントとなりました。学校側は、学生の自主性を重んじつつ、必要なところはフォローし、アドバイスするといった役割を担っていますが、これからも継続して、環境活動、エコアクション21活動の周知、実施も含め、協力、支援していきます。



■ コネクションプロデュース（環境サークル）の取組

● 「リラックスカフェ」を出店

前島学童クラブと協力し、「リラックスカフェ」を出店しました。学童に通う児童を大学祭に招き、実際にカフェの店員を経験してもらいました。子供達の社会教育の一環になればと実施したのですが、社会教育を通してエコの取り組みを肌で感じ、学んで欲しい思いがあり、お店の食器は全て「リユース食器」にしました。ゴミを出さないという意識を幼い頃から養えるきっかけになり、環境教育の一環にもなりました。出店の収益については、教育環境の充実を図り、全額学童に募金いたしました。

「リユース食器」とは・・・・・・・・・・！！

お祭りやコンサート、スポーツ観戦といったイベント会場では、使い捨て容器の利用が主流となっています。ゴミを減らして環境に配慮したイベントにするためには、まず①発生抑制（リデュース）、②再使用（リユース）、③再生利用（リサイクル）の優先順位で対策を推進することが求められています。リデュース、リユースの取り組みの一つであるリユース食器は、使い捨て容器に替えて導入する繰り返し洗って再使用（リユース）する食器を総称しているものです。

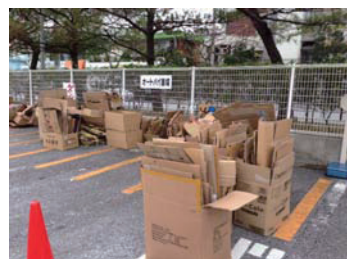


11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

● ゴミの分別回収

学生自らがゴミ回収、分別に積極的に取り組みました。
分別作業を中心的に行っていたエコサークルのメンバーです。
分別方法は、可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源ゴミ（ビン・アルミ缶・スチール缶・ペットボトル・ペットボトルのふた・段ボール）に分別しました。コンテナの手配や資源ゴミの回収業の手配など交渉等も全て学生自身で行いました。



■ 通学に係る環境への負荷削減



本学では、通学の際には、公共交通の利用やあいのり（カープール）通学を呼びかけています。
昨年の継続もあり、近年実践している学生が徐々に多く見られてきました。
今後も継続を呼びかけ、環境に配慮した通学を心掛けます。

あいのり（カープール）通学の呼びかけポスター



【次年度の取組内容】

学生サークル等による環境活動については、エコ大学祭を大きな柱として、学生主体として継続していきます。学生を支援する体制を強固し学生課と連携をしっかりと取り、大学祭実行委員をサポートしていきたいと思っています。今後、エコサークルだけではなく、多くのサークルにエコ活動の意識を高めさせることが重要であり、更に周知が徹底出来るように研修や説明会等を行い、掲示版での呼びかけも継続して行っていきたいと思っています。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

【学生インタビュー】コネクションプロデュースの取り組みについて

地域環境政策学科3年次の西平奨矢君が代表を務める「コネクションプロデュース」は、2011年12月に設立したばかりの新しい環境系サークルです。現在のメンバー数はそれほど多くはありませんが、今後は、お互いに役割を決め、様々な事にチャレンジしていきたいと思います。

沖縄国際大学 経済学部 地域環境政策学科4年次
(沖縄国際大学EA21内部監査員)

学生サークル コネクションプロデュース代表

西平 奨矢



【コネクションプロデュースの活動】

4月	サークル紹介
5月	フィールドワーク（漫湖公園）
6月	フィールドワーク（泡瀬干潟、比屋根湿地） 平和記念公園「平和の灯火」ボランティア
7月	「那覇の日」、「1万人エイサー祭り」ボランティアスタッフ
8月	前島学童保育（生きもの観察等）
9月	修学旅行生に対する環境・平和学習勉強会
10月	首里城祭「一万本の灯火」ボランティア 沖国大祭準備 学祭実行委と沖国祭に向けての話し合い 前島学童PTAと沖国祭に向けての話し合い
11月	沖国大祭 ゴミ削減への取り組み「ゴミ有料化」 前島学童合同出店「リラックスカフェ」
12月	世界食糧デー沖縄大会実行委員会と贈呈式 第10回全国大学生環境活動コンテスト「全国3位入賞」沖縄県勢初！ プレゼン内容：沖国祭でのゴミの有料化
1月	コネプロ新年会 沖国大ボランティア支援室主催 「つながるワークショップ新聞づくり」
2月	第4回神戸防災・社会貢献ディベート大会
3月	沖縄国際交流・環境社会学スタディーツアー参加 学生団体支援ワークショップ参加 フィールドワーク勉強会IN対馬丸記念館 「那覇めしグランプリ」ボランティアスタッフ 那覇市ワラビンチャー「ゆいゆい子ども広場」ボランティア 前島学童保育

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

○5月

フィールドワーク実施

【場 所】：漫湖公園・漫湖水鳥湿地センター

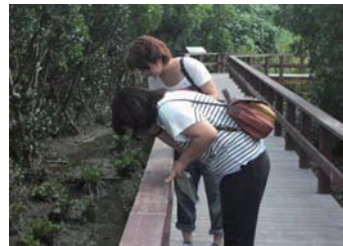
【人 員】：9名

【備 考】：沖縄県内の湿地環境の一つとして、漫湖でその生態系やそのしくみについて、顧問の上江洲薫先生の指導のもと、学ぶ事が出来ました。

■ フィールドワークの様子



図① センターからの観察



図② センターからの観察

【活動内容】

一番身近な湿地について学びました。

鳥類はあまり観られませんでした。泥の中からシオマネキなどの甲殻類を見つけることができました。湿地センターでは、昔の漫湖公園付近の自然環境から現在に至るまでの変化を知ることができ、短期間の間にどれほどの環境が破壊され、漫湖の湿地環境が減少しているか実感しました。また、その主な原因などをメンバー内で推測し合い共有し、知識を深めることが出来ました。

○6月

フィールドワーク実施

【場 所】：泡瀬干潟、「ウミエラ館」・比屋根湿地

【人 員】：7名

【備 考】：前回に引き続き、沖縄県内最大の規模を誇る泡瀬干潟とその近くにある比屋根湿地で、それぞれの干潟環境について学ぶ事が出来ました。ウミエラ館長の屋良朝敏さんからお話を聞く事が出来ました。

■ フィールドワークの様子



図① 干潟での学習の様子



慰霊の日に先駆けて、沖縄戦で亡くなった方々が安らかに眠れるよう想いを込めて、ロウソクを一本一本丁寧に立てました。右の写真の中央には「平和」の文字。

図② ロウソクを立てている様子

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

○7月

「那覇の日」ボランティアスタッフ

【場 所】：那覇市国際通り・平和通り周辺

【人 員】：3名

【備 考】：各ブースに分かれて、国際通りや平和通りを行き交う観光客や地元の方へうちな一方言クイズのスタンプラリーのイベント。「那覇の日」の周知、うちな一方言への関心を高められたと思います。

「1万人エイサー祭り」ボランティアスタッフ

【場 所】：那覇市国際通り

【人 員】：2名

【備 考】：エイサーを披露する方々や多くの観客の為に暑さ対策（打ち水や扇風機設置など）やゴミ収集など。

○8月

前島学童保育

【場 所】：那覇市前島

【人 員】：10人

【備 考】：前島学童の生徒達との交流。AM10:00～PM17:00。

学童保育の様子



図① 夏休み最終日の学童保育



図② 末吉公園

【活動内容】

前島学童保育は、生徒の夏休み期間中の活動でした。参加したメンバー全員が初めての取り組みでしたが、子供達と打ち解けることも早く出来、共に楽しい時間を過ごす事ができました。「生きもの観察会」では那覇市末吉の末吉公園で、NPO 法人みんなの方と交えて、公園内の鳥・植物・虫などを観察しました。

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

○10月

首里城祭「一万本の灯火」ボランティア

【場 所】：那覇市首里城

【人 員】：20名

【備 考】：首里城祭のイベントの一つとして、「一万本のろうソク灯火」ボランティアに参加しました。那覇市内の小学校に通う子供達、一人一人の平和に対する願いや夢などが描かれた紙が筒状に巻かれたり、ボランティアには近くの専門学生や高校生、大学生、一般の方々など多くの人がイベントに参加致しました。

当日の様子



図①一万本の灯火



図②集合写真

「学祭準備期間」

例年の学祭期間中のゴミ排出量をチェックし、削減対策がなされていないことに気づき対策を練りました。本学の管財課や沖縄大祭実行委員の方々と相談、調整を行いました。ゴミ削減対策は主に「ゴミ有料化」に決定。また有料化で得たお金の使い道を決定し、学生への周知を図るため、説明会を開きました。また、前島学童とコネクション・プロデュースとの共同でカフェを出店することが決まり、事前打ち合わせを行いました。

○11月

沖縄国際大学大学祭

【場 所】：沖縄国際大学

【人 員】：20名

【備 考】：「前島学童×コネプロ リラックスカフェ」実施。

大学祭の様子



11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

ゴミの有料化で得た14万円は、ゴミ処理費に7万、世界食糧デー沖縄大会実行委員会に7万円を寄付しました。



図①対談



図②記念撮影



図③学長と対談

○12月

第10回全国大学生環境活動コンテスト「全国3位入賞」沖縄県勢初！

【場 所】：東京都

【人 員】：9名

【内 容】：沖縄祭でのゴミの有料化と修学旅行生に対する平和・環境教育計画

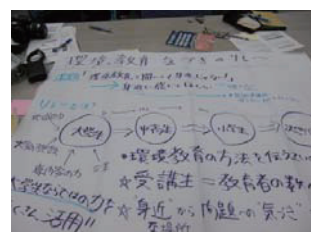
大会の様子



図①プレゼン



図②決勝戦進出団体



図③ワークショップ



図④展示コーナー



図⑤記念集合写真

11. 環境負荷低減への取組及び次年度の取組内容

⑬ 学生サークル等による環境活動

○1月

沖国大ボランティア支援室主催「つながるワークショップ新聞づくり」
ベストペーパー賞受賞

○2月

第4回神戸防災・社会貢献ディベート大会 参加
【場 所】：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
【人 員】：2名

○3月

沖縄国際交流・環境社会学スタディーツアー参加
【場 所】：沖縄県内各地
【人 員】：2名

学生団体支援ワークショップ参加
【場 所】：那覇市NPO支援センターてんぶす館
【人 員】：3名

フィールドワーク実施 テーマ「対馬丸事件」
【場 所】：対馬丸記念館・旭丘公園史跡
【人 員】：7名
【内 容】：修学旅行生向けに環境・平和学習のフィールドワークを実施致しました。
ガイドにつきましては、コネクションプロデュースのメンバーで行いました。

フィールドワークの様子



図①対馬丸記念館前



図②記念館ガイド



図③旭丘公園ガイド

11. 環境負荷低減への取組及び次年度取組内容

⑭ 啓発

「エコアクション21活動」に取り組んでいる事を学生だけでなく、地域の方々にも知って頂く為に、周知を徹底しています。



懸垂幕①



懸垂幕②

環境にやさしい沖縄国際大学「エコアクション21」実施中

エコアクション21活動を行うに当たり、エコキャップの回収や「室内温度設定の遵守」、「節水」、「ゴミの分別」、「節電」、「エレベーター利用の削減」を心掛けています。



写真1（室内温度設定の遵守）



写真2（節電）



写真3（節水）



写真4（エレベーター利用の削減）



写真5（分別ステッカー）

【次年度取組内容】

次年度も引き続き、環境意識の向上の為、ステッカー貼付、横断幕等の設置を継続していきます。そして、本学ホームページで環境への取組を公表、紹介します。環境負荷低減の更なる向上を目指して教職員・学生、一丸となって取り組んでいきます。

1 2. 学生の輩出

① 資格称号

本学ではそれぞれの活動現場で環境問題について主体的・指導的に活動する人材の育成を目指して、全国大学実務教育協会認定の「環境マネジメント実務士課程」と「上級環境マネジメント実務士課程」を設置しています。
これらの称号取得を希望する者は、下記のカリキュラムから必要な単位数を修得する必要があります。

●環境マネジメント実務士

持続可能な社会の実現に向けて企業及び個人が広い視野を持ち、環境問題に取り組むことのできる人材の育成を目標とします。このためには、単なる実践力及び技術力のみに限らず、その技術を支える基礎力の充実をはかり、時代の変化に対応できる人材の育成を行います。

環境マネジメント実務士の資格を取得しようとする者は、次に示す必修科目及び選択科目合わせて20単位以上を履修し、単位取得しなければならない。

必修科目（2科目4単位）
環境科学Ⅰ
環境経済学Ⅰ
選択科目（各群それぞれ2単位以上 計16単位以上）
Ⅰ群「環境科学」関連分野
Ⅱ群「環境応用科学」関連分野
Ⅲ群「環境法・経済・政策」関連分野
Ⅳ群「環境調査」関連分野

●上級環境マネジメント実務士

持続可能な社会の実現に向けて広い視野を持って環境問題に取り組み、自治体や事業所などの研究所や環境現場で主体的・指導的に活動する環境のスペシャリストの養成を目標とします。

上級環境マネジメント実務士の資格を取得しようとする者は、次に示す必修科目及び選択科目合わせて40単位以上を履修し、単位取得しなければならない。

必修科目（4科目8単位）
環境科学Ⅰ
環境経済学Ⅰ
廃棄物論
環境アセスメントⅠ
選択科目（各群それぞれ4単位以上 計32単位以上）
Ⅰ群「環境科学」関連分野
Ⅱ群「環境応用科学」関連分野
Ⅲ群「環境法・経済・政策」関連分野
Ⅳ群「環境調査」関連分野

資格認定証授与状況（2013年7月現在）				
授与年度	環境マネジメント実務士		上級環境マネジメント実務士	
	全国総計	沖縄国際大学	全国総計	沖縄国際大学
2011年度	25	6	27	16
2012年度	45	23	29	17
累計	70	29	56	33

1 2. 学生の輩出

② 資格課程カリキュラム一覧

本学「環境マネジメント実務士」「上級環境マネジメント実務士」資格課程カリキュラム一覧

	科目名		単位	備考
必修科目	環境科学Ⅰ		2	◎、○
	環境経済学Ⅰ		2	◎、○
	廃棄物論		2	◎
	環境アセスメントⅠ		2	◎
選択科目	Ⅰ群 「環境科学」関連分野	環境科学Ⅱ	2	
		生態学概論	2	
		土壌学概論	2	
		島嶼環境論	2	
		環境文化論	2	
		地学Ⅰ	2	
		地学Ⅱ	2	
	Ⅱ群 「環境応用科学」関連分野	環境資源論	2	
		人口食糧論	2	
		農業と環境	2	
		産業と環境	2	
		都市環境論	2	
	Ⅲ群 「環境法・経済・政策」関連分野	環境法	2	
		環境政策論Ⅰ	2	
		環境政策論Ⅱ	2	
		公害概論	2	
		環境教育論	2	
		環境経済学Ⅱ	2	
		環境会計	2	
	Ⅳ群 「環境調査」関連分野	地理情報システム論Ⅰ	2	
		地理情報システム論Ⅱ	2	
		社会調査論Ⅰ	2	
		社会調査論Ⅱ	2	
		社会調査演習	4	
		観光情報論	2	
		地域セミナー	4	

※備考欄の◎は、上級環境マネジメント実務士の必修科目、○は、環境マネジメント実務士の必修科目を表す。

13. 地域・社会への還元

● 環境コミュニケーション

本学の各学部から提供している高校生向けの講座です。
沖縄国際大学から講師を高校へ派遣する出前講座と各高校から本学へ高校生を招き行うキャンパス講座の2種類の実施方法があります。2012年度の大学入門講座の提供科目のうち、環境関連の講座は以下の通りです。

■ 大学入門講座提供科目

講座名	担当講師	
ゲーム理論で考える環境問題・エネルギー問題	経済学部 地域環境政策学科	友知 政樹
環境問題をコンピュータ・シミュレーションで考える ーサンゴ礁とオニヒトデー		
めざせ、魚沸く海！ ～楽しいサンゴ礁生物学入門～	経済学部 地域環境政策学科	山川 彩子
エコツーリズムの楽しみ方と環境保全	経済学部 地域環境政策学科	上江洲 薫
環境はいくらか ー沖縄のサンゴ礁を測り、真の豊かさを探るー	経済学部 地域環境政策学科	呉 錫畢
地球で何がおこっているのか？	経済学部 地域環境政策学科	名城 敏
沖縄県における太陽光発電	経済学部 地域環境政策学科	新垣 武
環境教育のすすめ ー感じる心と飛び跳ねる体ー	総合文化学部 社会文化学科	宮城 邦治
ヤンバルの森 ー貴重な自然資源は守れるかー		

【次年度の取組内容】

環境に関する講座を1つでも多く地域の方々へ提供していきえるように努力していきたいと思います。
継続して、環境意識の高い人材、環境保全等貢献出来る人材の育成を視野に入れたカリキュラムの整備、充実を図っていくとともに、教育・研究においても培った知識、情報等を地域社会へ還元し、また共有する活動を展開していきたいと思います。



1 4 . 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

No.	項目	関係法令名	遵守状況
1	公害対策	大気汚染防止法	○
		水質汚濁防止法	○
		浄化槽法	○
		下水道法	○
		土壌汚染対策法	○
		騒音規制法	○
		振動規制法	○
		悪臭防止法	○
2	地球環境	地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策法)	○
		エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)	○
		特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収法)	○
		生物多様性基本法	○
3	リサイクル ・ 廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)	○
		資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)	○
		食品循環資源の再利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)	○
		特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	○
		使用済み自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	○
		ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(PCB特別措置法)	○
		建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	○
4	化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	○
		毒物及び劇物取締法 (毒劇法)	○
		高圧ガス保安法	○
		消防法	○
5	環境一般	環境基本法	○
		循環型社会形成推進基本法	○
		国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	○
		環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(環境配慮促進法)	○
		環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律(環境活動・環境教育推進法)	○
		沖縄県生活環境保全条例	○

■環境関連法令等の遵守状況の確認結果

沖縄国際大学に關係する主な環境関連法令等の遵守状況は、上記の通りです。

遵守状況は定期的にチェックしており、環境関連法規の要求事項について、適正な点検、届出等、遵法性の確認を行いました。

■環境関連法令等の違反、訴訟等の有無

2012年7月現在、環境関連法規を遵守し、法律違反はありません。

また、本学開学以来、関係機関からの環境に係る指摘、苦情、訴訟等はありません。

15. 内部監査報告

内部監査チームは、経済学部名城敏教授をリーダーとして、教員2名、職員2名、学生2名の計6名で構成されており、エコアクション21関連文書・記録の確認及び環境担当者等への聞き取りをもとに監査が実施されました。

沖縄国際大学 エコアクション21内部監査チーム

	氏 名	所 属
教員	名城 敏	経済学部教授
	宮城 邦治	総合文化学部教授
職員	普久原 朝保	センター統括事務部長
	上原 靖	教務部学務課長
学生	西平 奨矢	経済学部地域環境政策学科4年次
	比嘉 麻美	経済学部地域環境政策学科3年次



学生も緊張しながら、質問する様子



監査項目や資料等のチェックを行う様子

内部監査結果

	内部監査項目	監査結果	評価
1	取組の対象組織・活動の明確化	ガイドラインの要求に適合している	AA
2	環境方針の策定	ガイドラインの要求に適合している	AA
3	環境への効果・負荷と環境への取組状況の把握及び評価	ガイドラインの要求に適合している	AA
4	環境関連法規等の取りまとめ	ガイドラインの要求に適合している	AA
5	環境目標及び環境活動計画の策定	ガイドラインの要求に適合している	AA
6	実施体制の構築	ガイドラインの要求に適合している	AA
7	研修の実施	ガイドラインの要求に適合している	AA
8	環境コミュニケーションの実施	ガイドラインの要求に適合している	AA
9	実施及び運用	ガイドラインの要求に適合している	AA
10	環境上の緊急事態への準備及び対応	ガイドラインの要求に適合している	AA
11	環境関連文書及び記録の作成・管理	ガイドラインの要求に適合している	AA
12	取組状況の確認並びに問題の是正及び予防	ガイドラインの要求に適合している	AA
13	代表者による全体評価と見直し	ガイドラインの要求に適合している	AA
14	環境活動レポートの作成	ガイドラインの要求に適合している	AA

16. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体評価

琉球諸島の自然環境に共生し、持続可能な循環型社会の構築に寄与する人材を育成することが本学の使命の一つであります。環境マネジメント体制を確立し、その使命を果たすために、「エコアクション21」の認証登録の申請を行い、2010年12月に認証・登録され、本学の取り組みについては、その後、再度更新審査を受けて再認証登録され、自然環境保全と環境負荷の低減につながる本学の環境マネジメントがガイドライン適合と評価されました。適合の評価を受けたものの、多くの課題を残しており、環境方針の基本理念に沿って環境マネジメントを一層強化していく取り組みが必要であると考えます。

以下、環境方針等に沿った評価と見直しについてまとめます。

1 環境負荷の低減について

環境活動計画の取組状況を見ると、活動計画の45の内、取り組んでいる：41、更に取り組みが必要：4という状況です。電力消費量については、6%削減し、今後も大きな期待が持てます。

ガソリンについても36%削減出来ました。しかし、今年もエネルギー投入の灯油については、33%と増加し、物資投入の用紙類使用量削減についても、1.9%増加となってしまった事は、引き続き本学の大きな課題です。今後も具体的に環境負荷低減の目標値を明確にし、引き続き、教職員や学生に周知を徹底し、取り組みを強化していかなければなりません。

2・3 環境教育・研究・地域連携について

教育研究については、前回同様に大学カリキュラムに環境科目が設定され、各学部、研究所、図書館における取り組みは評価できます。地域社会との連携については、高校生向けの環境講座の提供が充実し、少しずつ連携が取れてきました。

また、学内職員一斉清掃を実施し、学内だけではなく、地域への美化活動も積極的に行っています。今後も地域社会全体を見つめながら、取り組みを一層強化していきます。

4 環境経営システムについて

環境経営システムについては、少しずつではありますが、改善の余地が見えてきました。学生向けの研修会の実施や委託業者向けの研修会の実施など、全体としては不十分な面はありますが、意識が高まってきました。特に、今回初の試みとなるエコドライブ教習会の実施につきましては、充実した取り組みとなりました。今後も全学的に実施体制を見直し、より良い方向へ取り組んでいけるよう努力して参ります。

5 環境方針の実現について

今後もPDCAサイクルに則って見直しを行いつつ、計画的に活動を実施していきます。ガイドラインに沿い、明確な目的・目標を設定し、取り組んでいきます。特に学生を始め、地域社会へ環境活動の周知を徹底します。

6 環境に関する法規等の遵守について

環境に関する法規等の遵守については、今後もしっかり遵守していきます。

7 環境方針、環境活動の公開について

環境方針、環境活動の公開については、環境活動レポートやホームページ上で公開しています。その他にも、ミニパンフレットをゼミや講義で学生へ配布するなど、情報公開に努めてきました。今後も環境方針や環境活動を学生、教職員、一般社会へ公開していくよう努力していきます。



沖縄国際大学
理事長・学長 大城 保

この環境レポートは本学ホームページ
<http://www.okiu.ac.jp/> でも公表しています。

2012年度版(第4版) 2014年 2月20日発行



沖縄国際大学

Okinawa International University

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

沖縄国際大学総務部管財課

TEL:098-893-6664 FAX:098-893-1164

<http://www.okiu.ac.jp/>



沖縄国際大学

OKINAWA INTERNATIONAL UNIVERSITY

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1

www.okiu.ac.jp